

平成17年度岩手県立総合教育センター

命を大切にすることを育む 小学校道徳教育に関する研究
生命尊重にかかわる価値を高める
道徳的実践プログラムの作成をとおして

(第1年次)

研究協力校
花巻市立八幡小学校

岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
佐藤 至

< 目 次 >

研究の目的	-----	1
研究の方向性	-----	1
研究の年次計画	-----	1
本年度の研究内容と方法	-----	1
1 目標	-----	1
2 内容と方法	-----	2
3 研究協力校	-----	2
研究結果の分析と考察	-----	2
1 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本的な考え方	-----	2
(1) 「命を大切にすることを育む小学校道德教育」の現状	-----	2
(2) 命を大切にすることを育む小学校道德教育とは	-----	3
(3) 命を大切にすることを育んだ児童の姿	-----	4
2 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本構想	-----	4
(1) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムとは	-----	4
(2) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムにおける 道徳実践活動のねらい	-----	6
(3) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムにおける 道徳実践活動の進め方	-----	6
(4) 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本構想図	-----	7
3 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する推進試案	-----	8
(1) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムの作成をとおした 命を大切にすることを育む小学校道德教育の推進試案作成のための視点	-----	8
(2) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムの作成をとおした 命を大切にすることを育む小学校道德教育の推進試案作成上の留意点等	-----	8
(3) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムの 作成をとおした命を大切にすることを育む小学校道德教育の推進試案	-----	11
研究のまとめ	-----	11
1 研究の成果	-----	11
2 今後の課題	-----	12
[おわりに]		
【引用文献】		
【引用Webページ】		
【参考文献】		
【参考Webページ】		

研究の目的

今日の少子化・核家族化、急速な情報化社会の進展に伴い、子どもたちと人や社会・自然とのかわりが希薄になり、子どもたちが生命の有限さやかけがえのなさを理解したり、実感したりする機会が少なくなっている。その一方で、子どもたちは、テレビ番組やビデオ、テレビゲーム等を通じて、虚構の世界で作り上げられた生と死に頻繁に接している。その結果、子どもの生命に対する感性や意識は貧弱なものになってきている。折しも、児童生徒によるかけがえのない命を奪う重大事件が発生している。

このような状況の中、平成10年中央教育課程審議会答申「新しい時代を拓く心を育てるために」において、子どもたちの「生きる力」の育成の大切さが述べられ、その重要な要素の一つである「豊かな人間性」の中で、「生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観」が掲げられた。さらに、平成16年には文部科学省から、命を大切に教育の充実を一つの柱とする「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」が提示され、教育活動全体を通じて、命を大切に心を育む教育の一層の充実が求められているところである。

命を大切に心を育むためには、道徳教育において命の大切さにかかわる内容を重点とし、道徳の時間を弾力的に扱ったり、他の教育活動を関連させたりしながら、自他の生命のかけがえのなさ、誕生の喜び、死の重さ、生きることの尊さなど、命を大切にすることへの自覚を深める学習指導の展開を工夫していく必要がある。

そこで本研究は、生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおして、命を大切に心を育むための指導の在り方を明らかにし、小学校道徳教育の充実に役立てようとするものである。

研究の方向性

小学校において、命を大切に心を育む道徳教育の推進に資するため、生命尊重にかかわる価値を高めるための道徳的実践プログラムのあり方を検討し、実践的な指導計画を作成し提示することとする。

研究の年次計画

この研究は、平成17年度から平成18年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成17年度）

命を大切に心を育む小学校道徳教育についての基本的な考え方の検討及び基本構想の立案、推進試案の作成

第2年次（平成18年度）

命を大切に心を育む小学校道徳教育の推進試案に基づいた指導実践計画の立案及び指導実践並びにその分析・考察、研究のまとめ

本年度の研究内容と方法

1 目標

命を大切に心を育む小学校道徳教育についての基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案する。また、それに基づいて小学校道徳教育における生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの推進試案を作成する。

2 内容与方法

(1) 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本的な考え方の検討(文献法)

主題にかかわる先行研究や文献により、小学校道德教育における生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムを行う意義を明らかにし、基本的な考え方を検討する。

(2) 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本構想の立案(文献法)

命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本的な考え方に基づき、小学校道德教育における生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムを行う視点を明らかにし、命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本構想を立案する。

(3) 命を大切にすることを育む小学校道德教育についての推進試案の作成(文献法)

命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本構想に基づき、小学校道德教育における生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの試案を作成する。

3 研究協力校

花巻市立八幡小学校

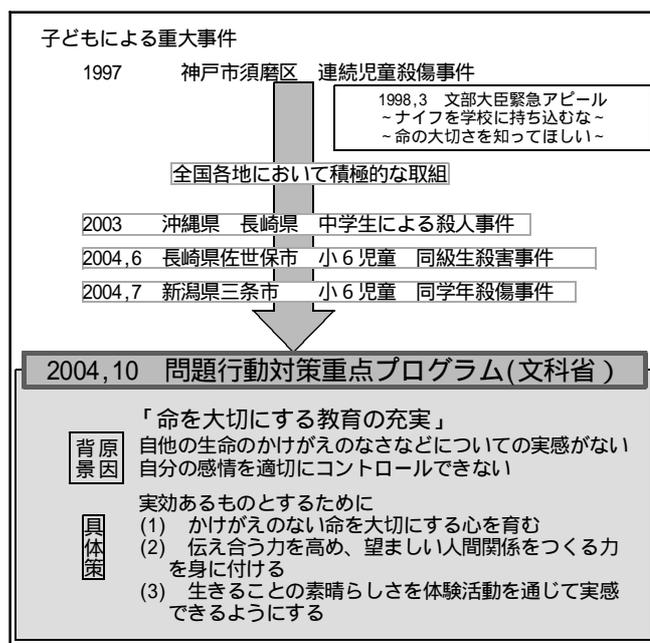
研究結果の分析と考察

1 命を大切にすることを育む小学校道德教育に関する基本的な考え方

(1) 「命を大切にすることを育む教育」の現状

平成9年の神戸市須磨区における連続児童殺傷事件以来、全国各地において「命を大切にすることを育む教育」を充実させるため、道徳の時間を中心として他の教育活動との関連を図ったり、家庭や地域との連携を図ったりするなどの積極的な取組が行われてきたが、その後も沖縄県や長崎県、新潟県などで児童生徒による重大事件が発生している。これらの事件は、社会全体に大きな衝撃を与え、学校教育においては早急かつ根本的な対応が求められているところである。こうした状況を受けて文部科学省(2004,10)は、「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」をまとめ、このような事件の原因・背景として「自他の生命のかけがえのなさなどについての実感が育まれていないこと」、「自分の感情を適切にコントロールができないこと」など自己抑制力が培われていないことをあげている。

さらに、同プログラムでは「命を大切にすることを育む教育」をさらに充実し、実効あるものとして進めていくために「(1)かけがえのない命を大切にすることを育み、(2)伝え合う力を高め、望ましい人間関係をつくる力を身に付け、(3)生きることの素晴らしさを体験活動を通じて実感できるようにすることが重要である。」と述べている。これら三点を命を大切にすることを育む教育を充実させるための具体策ととらえる。【図1】は、命を大切にすることを育む教育の現状についてまとめたものである。



【図1】「命を大切にすることを育む教育」の現状

これら三点を命を大切にすることを育む教育を充実させるための具体策ととらえる。【図1】は、命を大切にすることを育む教育の現状についてまとめたものである。

(2) 命を大切にすることを育む小学校道徳教育とは

「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」で示された三点の具体策について、道徳教育の観点から以下のように考える。

一点目の「かけがえのない命を大切にすることを育む」ためには、児童に自他の生命の大切さを実感させるとともに、「他人を傷つけない」、「自分を傷つけない」といった基本的な倫理観^{*1}を踏まえて生命を尊重する態度がとれるようにすることが大切である。そのためには、児童が自らの規範意識に基づいて「やっていいこと」と「やってはいけないこと」などの善悪を判断し、行動できるようになることが求められている。

二点目の「伝え合う力を高め、望ましい人間関係をつくる力を身に付ける」ためには、重大事件からも明らかなように、自分の感情をコントロールできないなどの自己抑制力が培われていない実態があることから、自制心^{*2}や自立心^{*3}、ストレスへの対応力^{*4}といった自己指導力^{*5}を身に付けさせていくことが必要である。さらに、児童相互の間でおきたトラブルの解決を暴力に訴えることがないようにするため、自分の気持ちや考えを適切に相手に伝え、生活上の問題を言葉で解決する力を育成することが重要である。自分の伝えたいことをはっきりと伝えたり、他人の話をしっかりと聞くことができるようにする中で、他者への思いやりの心や互いを尊重し合う態度が育まれ、望ましい人間関係が築かれていくと考える。

三点目の「生きる素晴らしさを体験活動を通じて実感できるようにする」ためには、子どもたちの実態として、虚構の世界で作り上げられた生と死に頻繁に接し、現実とヴァーチャルな世界との区別を付けられないといった現状があることから、体験活動を今まで以上に充実させることによって、心の絆づくりと望ましい人間関係の育成を目指す必要がある。

これらのことから、命を大切にすることを育むために、本研究において育てる力を「規範意識を高める力」「自己指導力」「人間関係を築く力」とし、その三つの力に内在する道徳的価値を生命尊重にかかわる価値とする。

命を大切にすることを育むために、本研究において育てる三つの力を以下のようにとらえる。

ア 規範意識を高める力とは

児童はこれまでの経験の中で「やっていいこと」と「やってはいけないこと」を判断する基準を個々に身に付けている。しかし、その判断する基準そのものは、自己中心的な考えに基づいている場合があり、その結果として命の問題にかかわるような事態を引き起こす要因ともなっている。そのようなことを未然に防ぐためには、どのような理由があっても判断の結果として、命の問題にかかわるような行為はしてはいけないということをとらえさせていくことが大切である。

したがって、命を大切にすることを育むための「規範意識を高める力」とは、いかなる状況においても、命の尊さを踏まえて善悪を判断する力ととらえる。

イ 自己指導力とは

人間は、「やってはいけないこと」と知りつつも行動に移してしまうことがある。「児童生徒の問題行動対策重点プログラム」では、重大事件の加害児童について「命の大切さについて頭では知っているようでも、行動規範として身につけていない状況にあったと考えられる。」と述べられている。「他人を傷つけない」「自分を傷つけない」といった考えがあるにもかかわらず、凶行に及ぶのは、そこに自制心が働かないといった現状がある。また、人間関係において、ため込んだストレスを押しさえきれない、あるいはそのストレスへの対応力がないという現状が

ある。

これらのことから命を大切にすることを育むための「自己指導力」とは、人間関係において自分の行動を自制する力やストレスへの対応力も含めた自己をコントロールする力ととらえる。

ウ 人間関係を築く力とは

森（2000）は、「児童相互の心理的な結び付きが強くなるのは、同じ目的に向かって協働したり、達成感を共有したときである」と述べている。このように、人間関係の育成には個性や趣味・趣向などが異なる個々が同じ目的に向かって活動し、お互いを認め合えるような関係を築くことが大切である。そのような活動を支えるものは児童個々が他者のよさを見つける力であったり、お互いを理解するために思いや願いを伝え合う力であったりする。

このことから、命を大切にすることを育むための「人間関係を築く力」とは、他者を肯定的に受け止め、お互いの思いや願いを伝え合う力であるととらえる。

以上のことから「命を大切にすることを育む小学校道徳教育」を「生命尊重にかかわる価値を高めることによって、児童が善悪を判断し、自己をコントロールし、望ましい人間関係を築くことができるようにするための教育的営み」ととらえる。

(3) 命を大切にすることを育んだ児童の姿

小学校道徳教育において命を大切にすることを育んだ児童の姿を「生命尊重にかかわる価値を高めることによって、善悪を判断し、自己をコントロールし、望ましい人間関係を築くことができる児童」ととらえる

こととする。そして、命を大切にすることを育む小学校道徳教育において育てる力と児童の姿を【表1】

【表1】命を大切にすることを育む小学校道徳教育で育てる力と児童の姿

育てる力	児童の姿
規範意識を高める力	いかなる状況においても、命の尊さを踏まえて善悪を判断している
自己指導力	自分の行動を自制したり、ストレスへの対応力を身に付けている
人間関係を築く力	他者を肯定的に受け止め、お互いの思いや願いを伝え合っている

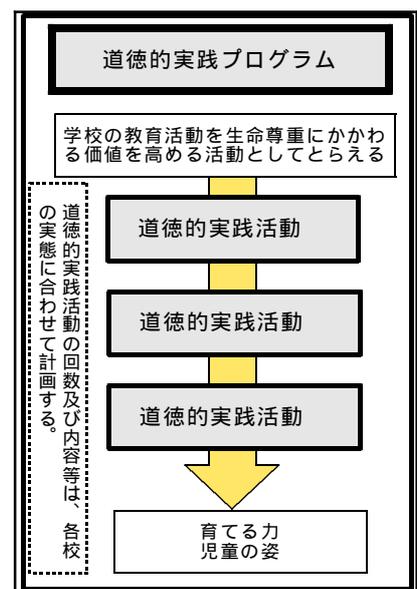
のように考え、研究を進めるものとする。

2 命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する基本構想

(1) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムとは

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、学校教育のあらゆる活動の中に児童の道徳的実践力を培うための機会が存在している。これまでも命を大切にすることを育むために、道徳の時間を中心としながら各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図った実践が行われてきた。このような実践の多くは、生命尊重の価値に焦点を当てたものであり、生命尊重の価値そのものを高めることが命を大切にすることを育むことにつながるという考え方を中心に行われてきた。しかし、本研究では、生命尊重にかかわる価値を高めることが命を大切にすることを育むことにつながるのとらえる。このような生命尊重にかかわる価値に視点を置いた実践は多くはない。

生命尊重にかかわる価値とは、善悪を判断し、正しいと思うことを行うための公德心や公正といった心情であったり、自分の感情を適切にコントロールする際の節度や節制の態度であっ



【図2】道徳的実践プログラムの進め方

たり、他者と接する際の思いやりや親切などの心情であったりする。これらは、命を大切にすることを育むために、必要不可欠な価値であると考えられる。

よって本研究では、学校における教育活動全体の中に指導者が生命尊重にかかわる価値を位置付け、その価値を高めるために、年間を見通した指導と教育活動全体による組織的な指導といった視点に基づいて作成した指導構想を道徳的实践プログラムと呼ぶこととする。道徳的实践プログラムの進め方を示したものが前頁【図2】である。また、道徳的实践プログラムにおいて、生命尊重にかかわる価値を高めるための活動を道徳的实践活動とする。道徳的实践活動のねらいや活動・体験場面の具体例については、【表2】に示したとおりであり、道徳の時間及び特別活動を中心として実施する。その際、道徳の時間は生命尊重にかかわる価値を補充・深化・統合する時間であることを認識し、計画的に位置付けることとする。

【表2】道徳的实践活動のねらいと活動・体験場面の具体例

育てる力	道徳教育の指導内容(重点)			生命尊重にかかわる価値	道徳的实践活動のねらい	活動・体験場面の具体例
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年			
規範意識を高める力	4-(1) みんなが使うものを大切に、約束やきまりを守る	4-(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ	4-(2) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす	公德心 規則の尊重	○約束事を守るとうとする心情を育てる ○法やきまりを守るとうとする心情を育てる	児童会活動 学級活動 クラブ活動 健康安全・ 体育的行事
			4-(3) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める	公正 公平 正義	○公正・公平な態度を養う	児童会活動 クラブ活動
自己指導力	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする	自分でできることは自分でやり、節度のある生活をする	生活を振り返り、節度を守り節制に心掛ける	節度 節制 自立	○基本的な生活習慣を身に付ける	遠足・集団 宿泊的行事
	1-(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う	1-(3) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる	1-(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する	勤勉・努力 忍耐 不撓不屈	○勤勉にくじけず努力し、自分を向上させようとする態度を育てる	健康安全・ 体育的行事
人間関係を築く力	2-(3) 友達と仲よくし、助け合う	2-(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う	2-(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う	友情 信頼 助け合い	○信頼感や友情を大切にしようとする心情を育てる	遠足・集団 宿泊的行事
	2-(4) 日ごろお世話になっている人々に感謝する	2-(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する	2-(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる	尊敬 感謝	○人々や生活に対する尊敬と感謝の念を育てる	勤労生産・ 奉仕的行事 異世代交流 などの体験活動
	2-(2) 身近にいる幼いや高齢者に温かい心で接し、親切にする	2-(2) 相手のことを思いやり、親切にする	2-(2) だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする	思いやり 親切	○思いやりの心もち、親切にしようとする心情を育てる	勤労生産・ 奉仕的行事 異世代交流 などの体験活動

(2) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムにおける道徳的実践活動のねらい

小学校道徳教育において命を大切にすることを育むための価値にはどのようなものがあり、それらが高めるためには、道徳的実践活動にどのようなねらいを位置付けていくことが求められるのかについて、以下のように考える。

ア 規範意識を高める力の育成について

規範意識を高める力を育成するためには、児童が生活する上で必要とされる公德心や社会規範を守り、それらの精神を日々の生活の中に発展させるように指導する必要がある。内山(2005)は、「基本的な生活習慣の形成、様々な情報の是非を判断する基礎的な知識の獲得、そうした当たり前のことの積み重ねこそが正しい判断力を育てるのに役立つ」と述べている。これらのことから、基本的な生活習慣を身に付けるための節度・節制、自立といった価値や公德心・規則の尊重及び公正・公平、正義といった価値を高めることが求められる。

そのためには、約束事を守ること、法やきまりを守ること、公正・公平な態度を養うこと、基本的な生活習慣を身に付けることをねらいとした道徳的実践活動を道徳的実践プログラムの中に位置付けることが大切であると考え。活動・体験場面の具体例としては、児童が公德心や公正・公平な態度を養うための児童会活動やクラブ活動、規則を尊重する心が高めるための健康安全・体育的行事等が効果的であると考え。

イ 自己指導力の育成について

自己指導力を育成するためには、基本的な生活習慣を身に付け、節度のある生活ができるように指導する必要がある。有村(2005)は「自己コントロール」の育成に向けて「粘り強く課題を追求する、他と適切にかかわる、落ち着いて勉強するなど、自己成長に資する態度と耐性が求められる」と述べている。このことから、基本的な生活習慣を身に付けるための節度・節制といった価値や粘り強くやり遂げるための勤勉・努力、忍耐、不撓不屈といった価値を高めることが求められる。

そのためには、基本的な生活習慣を身に付けること、勤勉さや自分を向上させようとする態度を養うことをねらいとした道徳的実践活動を道徳的実践プログラムに位置付けることが大切と考え。活動・体験場面の具体例としては、基本的な生活習慣を身に付けるための遠足・集団宿泊的行事及び勤勉・努力、忍耐、不撓不屈の心情を養うための健康安全・体育的行事等が効果的であると考え。

ウ 人間関係を築く力の育成について

望ましい人間関係を築くためには、友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもたせるとともに、友達以外の他者についても尊敬と感謝の念をもって接することができるように指導する必要がある。このことから友情・信頼、助け合いといった価値や尊敬・感謝及び思いやり・親切といった価値を高めることが求められる。

そのためには、信頼感や友情といった心情及び人々や生活に対する尊敬や感謝の念並びに思いやりの心情を育てることをねらいとした道徳的実践活動を道徳的実践プログラムに位置付けることが大切であると考え。活動・体験場面の具体例としては、友情、信頼、助け合いの心情を育てる遠足・集団宿泊的行事及び尊敬・感謝の念や思いやり・親切の心情を育てる勤労生産・奉仕的行事等が効果的であると考え。

(3) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムにおける道徳的実践活動の進め方

道徳的実践活動の推進に当たっては、指導者はまず道徳的実践プログラムに基づいて、実施計

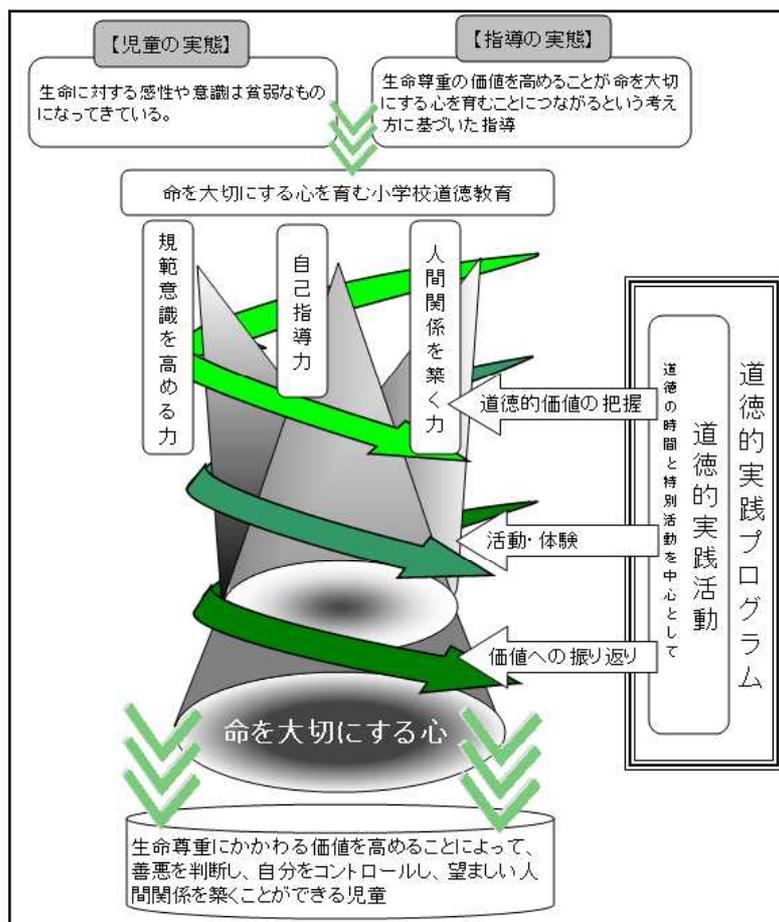
画を作成する。その後、「児童による道徳的価値の把握とめあての設定（第一段階）」、「活動・体験（第二段階）」、「児童による道徳的価値への振り返り（第三段階）」を設定して推進する。三つの段階には、それぞれに六つの指導過程を設定する。なお、第一段階から第二段階段階へのつなぎとして、教師による児童の個人めあての把握と実践活動における個に応じた指導計画の立案を行う。第二段階から第三段階へのつなぎとして、活動・体験を終えての児童の振り返り内容を把握し、第三段階の個に応じた指導計画の立案を行うものとする。以上のような流れをまとめたものが【図3】である。

段階	指導過程	各指導過程のねらい
第一段階 めあての価値の把握と	1 オリエンテーション	道徳的実践活動の概要を把握する
	2 本時の課題把握	学年の発達段階に応じて、個人めあての設定に向けての課題を設定する
	3 本時の見通しをもつ	本時の活動の進め方をとらえる
	4 課題追求	個人めあての設定に向けて、グループ活動やスキルトレーニングに取り組む
	5 個人めあての設定	活動のねらいとする道徳的価値に触れる個人めあてを設定する
	6 本時のまとめ	本時の課題について振り返るとともに、次時の見通しをもつ
個人めあての把握と実践活動における個に応じた指導計画を立案		
第二段階 活動・体験	1 オリエンテーション	本時の活動内容をとらえる
	2 本時の課題把握	個人めあてに向けての意欲化を高める
	3 本時の見通しをもつ	活動の流れやグループの編成、場の設定等について理解する
	4 課題追求	個人めあてに向けて活動に取り組む
	5 個人めあてについて振り返る	本時及び帰宅後に振り返りカードに個人めあてについてどうだったか反省を記録する
	6 本時のまとめ	本時の課題について振り返るとともに、次時の見通しをもつ
個人の振り返り内容を把握し、学級での振り返り活動における個に応じた指導計画を立案		
第三段階 めあての振り返り	1 本時の活動内容についての把握	本時の活動内容をとらえる
	2 本時の課題把握	個人めあてについて深める時間であることをとらえる
	3 本時の見通しをもつ	課題追求の進め方について理解する
	4 課題追求	グループ活動や全体での活動により、お互いの反省点について交流する
	5 個人めあてについて深める	交流活動を受けて、個人めあてについて深まった考えをまとめる
	6 本時のまとめ	本時の課題について振り返る

【図3】道徳的実践活動の進め方

(4) 命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する基本構想図

これまで述べてきたことから、命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する基本構想図を次頁【図4】のように作成した。



【図4】命を大切にする心を育む小学校道德教育に関する基本構想図

3 命を大切にする心を育む小学校道德教育に関する推進試案

(1) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおした命を大切にする心を育む小学校道德教育の推進試案作成のための視点

生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおして、命を大切にする心を育む小学校道德教育の推進試案を作成するに当たって、基本構想をふまえ推進試案の作成の視点について次のように考えた。

推進試案作成のための視点

学校教育目標から道徳的実践プログラムを立案するまでの手順を明らかにすること
 道徳的実践活動のねらいと活動場面の具体例が明らかになるように示し、各校の実態に応じて道徳的実践プログラムを作成することができるようにすること
 道德教育全体計画をはじめとする諸計画を作成する上での留意点を示すこと

(2) 生命尊重にかかわる価値を高める道徳的実践プログラムの作成をとおした命を大切にする心を育む小学校道德教育の推進試案作成上の留意点等

命を大切にする心を育む小学校道德教育の推進に際して、道德教育に関する諸計画の定義・意義及び表記すべき事項並びに留意点等について示したのが次頁【表3】である。道德教育に関する諸計画は、教育活動全体をとおして行われる道德教育の基本的な方針を示すと共に、道徳的実践プログラムにおいて、生命尊重に関わる価値を重点内容とする方針を明確にするものである。

【表3】道徳教育に関する諸計画の定義・意義及び表記すべき事項並びに留意点等

	定義・意義	示す内容	基本的把握事項	具体的計画事項	作成上の留意点	
道徳教育全体計画	学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体をとおして、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画	学校として特に工夫し、留意すべきことは何か	ア 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政重点施策	ア 学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標 イ 道徳の時間の指導の方針 ウ 各教科、特別活動、総合的な学習の時間などにおける道徳教育の指導方針	学校教育目標を受けて、命を大切にすることを育むための道徳教育を推進していくことを確認するためのもの。これによって、全体計画における道徳教育の重点目標が決定される	
			イ 学校、地域の実態、教職員、保護者の願い	エ 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針 オ 学級、学校の人間関係や環境の整備、生活全般における指導の方針		生命尊重にかかわる諸価値に重点を置いた指導内容別学年配当時数一覧を作成する 全体計画の児童版・保護者版を作成し、学校の方針がより理解されるように努める
			ウ 児童の実態と課題	カ 家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法 キ その他 ・ 研修計画、重点的指導に関する添付資料 ・ 各事項について、文章化し解説したもの		
学級における指導計画	全体計画を児童や学級の実態、更には願いに応じて具体化するものであり、学級において教師や児童の個性を生かした道徳教育を展開する指針となるもの		ア 学級における児童の道徳性の実態	ア 教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を築く方策	学級経営案との関連を図りながら作成する	
			イ 学級における児童の願い、保護者の願い、教師の願い	イ 各教科、特別活動、総合的な学習の時間などにおける道徳教育の概要 ウ 学級生活における豊かな体験活動の計画	重点目標に絞った学級の方針を示す 学級における指導計画の児童版・保護者版を作成し、学級の方針がより理解されるように努める。作成に当たっては、家庭での活用が図られるような形式を検討する	
			ウ 学級における道徳教育の方針	エ 学級における教育環境の整備計画 オ 基本的な生活習慣に関する指導計画		
				カ 他の学級・学年及び家庭・地域社会等との連携にかかわる内容と方法 キ その他 重点的な指導に関する具体的計画など		
年道徳指導計画の	道徳の時間の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、児童の発達に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画	道徳の時間に指導しようとする内容について、児童の実態や多様な指導方法等を考慮して、学年段階に応じた主題を構成し、この主題を学年別に年間にわたって適切に位置づけ、配列し、展開の概要等を示したもの。(基本的な把握事項は特になし)	ア 各学年の基本方針 イ 各学年の年間にわたる指導の概要	重点目標に絞った指導計画を添付し、実施日、評価欄、板書計画を示す		
			具備すべき内容 指導の時期、主題名、ねらい、資料、主題構成の理由、展開の概要及び指導の方法、他の教育活動等における道徳教育との関連、その他(校内外の協力体制等)			

命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進に際して、特別活動全体の指導計画の定義・意義及び作成に際して重視すべき事項を示したのが【表4】である。これは特別活動の重点目標や各活動の内容を示し、道徳的実践活動の活動・体験場面(第二段階)を構想する視点を示すものである。

【表4】特別活動全体の指導計画の定義・意義及び重視すべき事項

特別活動全体の指導計画	
定義・意義	学校の教育目標を達成させるために、特別活動の各内容の実践的な活動について示した教育計画
作成に際して重視すべき事項	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習の時間、生徒指導などとの関連を図る 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の関連を図る 全教師の共通理解と協力体制の確立を図って作成する 児童の実態を把握し、発達段階や特性を生かし、自主的、実践的な活動が助長されるように作成する 特別活動で培った資質や能力が各教科等で深められるように配慮する 児童が現在及び将来の生き方を自ら考えることができるように配慮する 家庭や地域と協力し連携を深め、交流や体験などの充実を図ることができるように作成する 道徳的実践活動の活動・体験場面を学校の教育活動に位置付ける。

命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進に際して、道徳的実践プログラム作成の目的及び表記する事項を示したのが次頁【表5】である。これは、道徳教育に関する諸計画に基づいて、道徳的実践プログラムを作成する際の手順を示し、道徳的実践活動の実施計画立案の視点となるもの

である。

【表5】道徳的実践プログラム作成の目的及び表記する事項

道徳的実践プログラムの作成	
作成の目的	道徳教育の重点目標に基づいて、道徳的実践活動のねらいを明らかにするとともに、活動日程、活動の場など各道徳的実践活動の実施計画を立案するための全体像を示す
表記する事項	三つの育てる力それぞれから選択した道徳的実践活動のねらい 道徳的実践活動のねらいを位置付けた活動・行事名 各学年の具体のねらい 年間活動スケジュール 道徳的実践活動の実施計画

命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進に際して、道徳的実践活動の実施計画作成の目的及び表記する事項を示したのが【表6】である。これは、道徳的実践プログラムを基にして作成される道徳的実践活動の三つの段階における指導案作成の視点を示すものである。

【表6】道徳的実践活動の実施計画作成の目的及び表記する事項

道徳的実践活動の実施計画	
作成の目的	道徳的実践活動のねらいに基づいた、単元の実施計画を示し、三つの段階における指導・支援のあり方を明らかにする
表記する事項	全体にかかわって 道徳的実践活動で育てる力、ねらい、学年毎の具体のねらい、活動区分、活動名、学年 第一段階「児童による道徳的価値の把握とめあての設定」 本時のねらい、日時、場所、時数扱い、主な活動の流れ、個人めあての設定例、導入スキル・グループ編成等の配慮事項 第二段階「活動・体験」 本時のねらい、日時、場所、時数扱い、主な活動の流れ、個及びグループへの支援・場の設定・導入スキル・振り返りの方法等の配慮事項 第三段階「児童によるめあての振り返り」 本時のねらい、日時、場所、時数扱い、主な活動の流れ、次の活動への発展、場の設定及び個への支援等

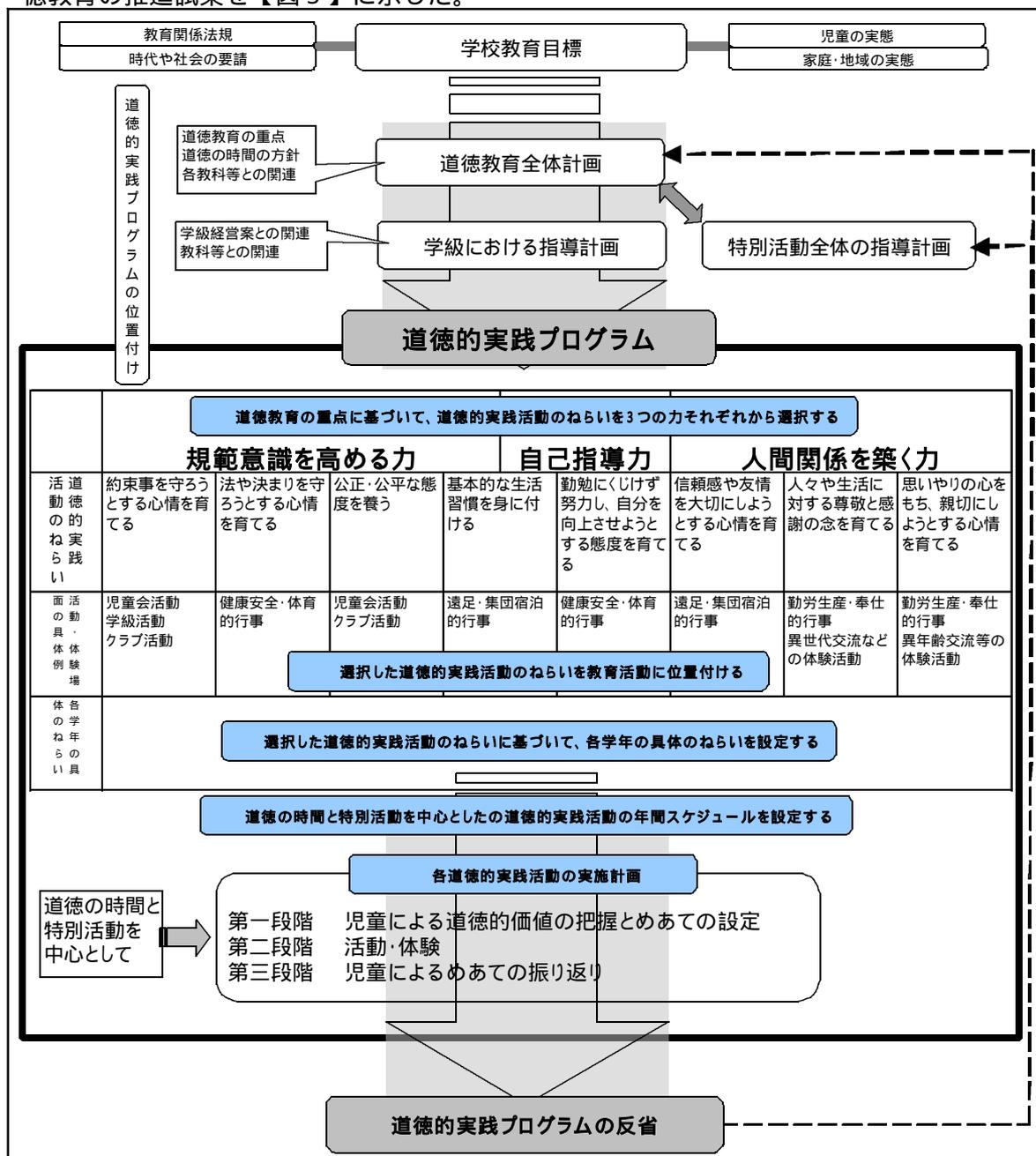
命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進に際して、生命尊重にかかわる価値に重点を当てた年間指導計画作成のための指導内容と指導時数を示したのが、【表7】である。網掛けの部分は、本研究における生命尊重にかかわる価値の指導内容である。

【表7】年間指導計画作成のための指導内容と指導時数

道徳性の四つの視点	指導内容と指導時数									
	指導内容	第一学年	第二学年	指導内容	第三学年	第四学年	指導内容	第五学年	第六学年	
自分自身に関すること	1 (1)	3	3	1 (1)	3	3	1 (1)	3	3	
	1 (2)	2	2	1 (3)	2	2	1 (2)	2	2	
	1 (3)	3	3	1 (4)	3	3	1 (3)	1	1	
	1 (4)	3	3	1 (5)	2	2	1 (4)	2	2	
							1 (5)	1	1	
							1 (6)	1	1	
他の人とのかわりに関すること	2 (1)	2	2	2 (1)	2	2	2 (1)	1	1	
	2 (2)	3	3	2 (2)	3	3	2 (2)	2	2	
	2 (3)	3	3	2 (3)	3	3	2 (3)	3	3	
	2 (4)	3	3	2 (4)	2	2	2 (5)	2	2	
自然や崇高なものとのかわりに関すること	3 (1)	2	2	3 (1)	2	2	3 (1)	1	1	
	3 (2)	3	3	3 (2)	2	2	3 (2)	2	2	
	3 (3)	1	1	3 (3)	1	1	3 (3)	1	1	
集団や社会とのかわりに関すること	4 (1)	3	3	4 (1)	3	3	4 (1)	1	1	
							4 (3)	2	2	
				4 (2)	1	1	4 (4)	1	1	
	4 (2)	2	2	4 (3)	1	1	4 (5)	1	1	
	4 (3)	1	2	4 (4)	1	1	4 (6)	1	1	
				4 (5)	1	1				
				4 (6)	1	1	4 (7)	1	1	
							4 (8)	1	1	
年間指導時数計		34	35		35	35		35	35	

(3) 生命尊重にかかわる価値を高める道德実践プログラムの作成をととした命を大切にすることを育む小学校道德教育の推進試案

基本構想に基づき、推進試案作成のための視点に配慮し、命を大切にすることを育む小学校道德教育の推進試案を【図5】に示した。



【図5】命を大切にすることを育む小学校道德教育の推進試案

研究のまとめ

1 研究の成果

この研究は、命を大切にすることを育む小学校道德教育の在り方について明らかにし、道德教育の充実に役立てようとするものである。本年度の研究の目標は、命を大切にすることを育む小学校道德教育についての基本的な考え方を検討するとともに、基本構想を立案し、推進試案を作成することであった。

ここでは、それらの研究内容の成果について総括的にまとめる。

(1) 命を大切にすることを育む小学校道徳教育についての基本的な考え方の検討

主題にかかわる先行研究や文献に当たることにより、命を大切にすることを育むための小学校道徳教育において求められることや育てる力を明らかにすることができた。また、生命尊重にかかわる価値を高めるための道徳的実践プログラムの意義や進め方について明らかにすることができた。このように、命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する基本的な考え方を明らかにし、小学校道徳教育において育てる力と道徳的実践プログラムのあり方について検討することができた。

(2) 命を大切にすることを育む小学校道徳教育についての基本構想の立案

命を大切にすることを育む小学校道徳教育についての基本的な考え方に基づき、小学校道徳教育において育てる力を高めるための道徳的実践プログラムの基本構想を明らかにすることができた。このことにより、生命尊重にかかわる価値を明らかにし、道徳的実践活動のねらいを設定することができた。また、道徳的実践活動を推進する際の見通しをもつことができた。このように、命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する基本構想を検討し、立案することができた。

(3) 命を大切にすることを育む小学校道徳教育についての推進試案の作成

基本的な考え方と基本構想で述べた視点を基に、命を大切にすることを育む道徳的実践プログラムの構想から反省までの年間を見通した指導の流れを明らかにし、道徳的実践プログラムを立案するまでの手順、育てる力や道徳的実践活動の実施計画の立案、活動の流れについて検討を進めた。これにより、生命尊重にかかわる価値を高める道徳実践プログラムの作成をととした命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進試案を作成することができた。

2 今後の課題

本年度の研究を踏まえ、命を大切にすることを育む小学校道徳教育の推進試案に基づいた指導のあり方について、研究協力校との協議を進め実践的に究明し、道徳的実践プログラムの実践計画を立案することが今後の課題である。なお、実践に当たっては、研究協力校において道徳的実践プログラムで育てる力、道徳的実践活動の行事等への位置付けについて検討し、道徳的実践プログラムを具体的に構想していくことが必要である。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に心からお礼を申し上げます。

【引用文献】

有村久春(2005),『児童生徒の問題行動への対応』『命を大切にすることを育む』,教育開発研究所,p.12

内山絢子(2005),『子どもの規範意識の育成』『命を大切にすることを育む』,教育開発研究所,p.31

森徹(2000),『道徳・特別活動』,明治図書,p.214

【引用Webページ】

文部科学省(2004),『児童生徒の問題行動対策重点プログラム(最終まとめ)』

【参考文献】

大河原美以(2004),『怒りをコントロールできない子の理解と援助』,金子書房

金森俊朗(2003),『命の教科書』,角川書店

近藤卓(2002),『いのちを学ぶ・いのちを教える』,大修館書店

近藤卓(2003),『いのちの教育』,実業之日本社

本田恵子(2002),『キレやすい子の理解と対応』,ほんの森出版

【参考Webページ】

静岡県青少年問題協議会(2002),青少年の規範意識を育てるための施策について

<http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-09/ikengusin.htm>

-
- *1 林泰成(2005)は、『指導と評価(10月号)倫理観を育てる授業』(日本図書文化協会、p.8)で倫理観について次のように定義している。「人間は、生まれつきの生理的な欲求などをもとに生きようとするが、さまざまな場所でさまざまな刺激を受けて、後天的に生きるための価値観を形成していく。そうした価値観の中で道徳にかかわるようなものを倫理観と呼ぶ」
- *2 小宮山博仁(2002)は、自制心を「年齢相応の方法で自分の行動を調節しコントロールする能力(すぐキレない能力)」と定義している。
「《コラム》生きる力とEQ その2 (http://kids.gakken.co.jp/campus/parents/news/n38_p6.html)」
- *3 菅野勝治郎(2005)は、自立心がある状態を「自分は自分、人は人、とはっきりけじめを付けて生活できる力を持っていること」ととらえている。
「自立心を育てる (<http://www.edt.tamagawa.ac.jp/faculty/kanno/%82O502.html>)」
- *4 嶋田洋徳(2005)は、児童のストレス対処能力を向上させるためには、児童を取り巻くストレスの基となる刺激や出来事(ストレッサー)を除去するのではなく、ストレッサーに対する効果的な対処方法(コーピング)を習得させることが重要であると述べている。
『「命を大切に教育」をどう進めるか(教育開発研究所、p.40)』
- *5 「児童生徒の問題行動対策重点プログラム(最終まとめ)」では、「子どもの社会性を育成し、自制心や自立心、ストレスへの対応力を含む、自己指導力やモラルを高めるため、多様で効果的なプログラムなどを広く収集し、その情報を学校や教育委員会等に提供し、その活用を促進する。」とし、衝動的な行動抑制のために自己指導力が必要であると述べている。